

地域の防災力向上に向けた 防災活動の手引き

～ 学校向け ～



地域の防災力低下が叫ばれている今、
子どもたち一人ひとりが防災意識を高め、
「自分や地域のことは自分たちで守る」ための行動を学んでいく必要があります。

この手引きをきっかけとして、災害に負けない強い地域社会を
子どもたち自身の手で築いていくための一助となれば幸いです。

平成 23 年 8 月
三六災害50年実行委員会

(1) はじめに

この手引きでは、防災意識を高いレベルに引き上げ、そのレベルを維持し、災害発生時にも児童・生徒の皆さんが冷静に適切な行動がとれるよう、防災活動に関する活動プログラムを整理しました。

内容は、小学校5年生以上中学生までを対象とした学校向けに設定されています。また、活動プログラムによる学習の効果をより高めるために、この手引きには以下の資料が付属されています。

[付属資料]

1. 副読本
2. パワーポイント

=本資料コンテンツ=

(1) はじめに	1
(2) 活動プログラムの洗い出し	2
(3) 活動プログラム	2
活動プログラム1 三六災害を知る (演劇 (DVD) 鑑賞会)	3
活動プログラム2 出前講座	5
活動プログラム3 伊那谷の災害を訪ねて (室内)	7
活動プログラム4 伊那谷の災害見学	9
活動プログラム5 工事現場見学会	13
活動プログラム6 自分のまちの防災マップをつくろう!	15
(4) 活動を円滑に進めるための情報・資料	17

(2) 活動プログラムの構成

防災力向上に特に高い効果が得られると考えられる項目について、活動プログラムの具体的な手法についてまとめました。

■学校向け活動プログラムの内容

取り組み段階	活動プログラム	内容と期待できる効果
STEP. 1 導入段階（聞く） ＊発達段階の入口として実施	災害導入教育 ・三六災害を知る（演劇（DVD）鑑賞会） ・出前講座 ・伊那谷の災害を訪ねて（室内）	・学校に出向き、三六災害についての授業をする（DVDの視聴、講師による講演など） ・身近な地域で災害が起こりうることを知るきっかけになることが期待できる
STEP. 2 発展段階（体験する） ＊発展的な学習として実施	災害体験学習 ・伊那谷の災害見学 ・工事現場見学会	・災害現地に直接出向き、災害時の状況やその後の復興について話を聞く ・現地見学をし、被災者などからの話を聞くことで、災害を立体的に体感できることが期待できる
STEP. 3 自発段階（考え行動する） ＊自発的な学習として実施	災害研究活動 ・自分のまちの防災マップをつくろう！	・通学する経路を実際に自分の目で確かめて、子ども達の視点による防災マップを作成する ・作ったマップを子ども達から地域に情報発信することで、地域が防災に取り組むインセンティブになることも期待できる

(3) 活動プログラム

活動プログラムについて、具体的な内容を次ページ以降に示します。

※ 屋外プログラム実施時の留意点

屋外では、転倒や落石などにより参加者が傷害を負うことも想定されます。

主催者は、十分な安全計画を立てるとともに、万が一のときに備えた準備が肝要です。

[事故・傷害への備え]

- プログラムを実施する場所にどのような危険が潜んでいるか、想定される事故などについて検討し、関係者に周知します（事前に行い、当日にも確認する）。
- 危険な場所では、ヘルメットなどの安全具の装着し、サンダルや半そでシャツなどではなく、運動靴や長袖シャツなど肌が露出しない服装を促します。
- 事故発生時の連絡先を事前に確認するとともに、参加者用の「傷害保険」に加入しておきます。

学校向け活動プログラム

活動プログラム1 三六災害を知る（演劇（DVD）鑑賞会）

プログラム概要

三六災害下で繰り広げられた劇的なドキュメントを表現した演劇（DVD）を鑑賞します。

〔ねらい〕

- ・災害当時の様子をリアリティーをもって学び、自分たちにとっても身近なできごとであることを認識します。
- ・災害を伝承することの大切さを考えます。

【所要時間】 2時限

【実施場所】 小中学校、図書館、公民館



DVD をみんなで鑑賞する

■準備物（先生方）

準備物		準備物	
<input type="checkbox"/>	演劇（DVD） 「演劇的記録三六災害五十年」	<input type="checkbox"/>	災害おはなしマップ 下記参照（必要に応じて）
<input type="checkbox"/>	ノート PC（必要に応じて）	<input type="checkbox"/>	災害教訓伝承カルタ 4 ページ参照（必要に応じて）
<input type="checkbox"/>	スクリーン（必要に応じて）		
<input type="checkbox"/>	液晶プロジェクター （必要に応じて）		
<input type="checkbox"/>	ふりかえりシート		
<input type="checkbox"/>			

■児童・生徒

持物	
<input type="checkbox"/>	筆記用具

◇◇『災害おはなしマップ』シリーズ◇◇


飯田市、伊那市、駒ヶ根市・宮田村に残る災害にまつわるお話や、水害にまつわる石碑などを紹介しています。



入手方法

天竜川上流河川事務所ホームページより PDF ファイルをダウンロードできます。
<http://www.cbr.mlit.go.jp/tenryo/flood/densho/tebiki.html>

■プログラムの流れ

活動内容		ポイント
導入	演劇 (DVD) のシナリオ、災害の概要説明	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが、三六災害について知っていることを発表し合います。 演劇 (DVD) のシナリオを解説します。
内容	<p><u>三六災害を知る</u></p> <p>◆演劇 (DVD) 鑑賞</p>  <p>◆意見交換</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが、恐怖心だけを抱くことにならないよう、部屋を暗くし過ぎないなど配慮します。 時間的に余裕があれば、「災害おはなしマップ」を用いてさらに理解を深めることができます。また「災害教訓伝承カルタ」を用いれば、遊びの要素も取り入れながら学ぶこともできます。 演劇 (DVD) や写真を見た感想、初めて知ったことなどを発表しあいます。 友達の意見を聞いて考えたことを発表しあいます。
まとめ	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ふりかえりシートを記入 ふりかえりシートに書いたことを発表 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が防災について、これからできそうなことを考えます。

◇◇災害教訓伝承カルタ◇◇

これまでの災害教訓や古くからの言い伝えなどを基に自然、歴史、文化、産業、地名など郷土を代表する風土資産を読み込んだ読み札と、地域の美しい風土資源や読み札を分かりやすく解説するイメージ図を盛り込んだ絵札の災害教訓伝承カルタがあります。

入手方法は、天竜川上流河川事務所ホームページより PDF ファイルをダウンロードできます。

<http://www.cbr.mlit.go.jp/tenryo/flood/densho/tebiki.html>



学校向け活動プログラム

活動プログラム 2 出前講座

プログラム概要

三六災害の特徴や実際に何が起こったのかについて
 三六災害に詳しい講師から学びます。

[ねらい]

- ・災害当時の様子をリアリティーをもって学び、自分たちにとっても身近なできごとであることを認識します。
- ・災害を伝承することの大切さを考えます。

【所要時間】 1 時限

【実施場所】 小中学校、図書館、公民館



災害の話をみんなで聞く

■準備物（先生方）

準備物		準備物	
<input type="checkbox"/>	ノート PC(必要に応じて)		
<input type="checkbox"/>	スクリーン(必要に応じて)		
<input type="checkbox"/>	液晶プロジェクター (必要に応じて)		
<input type="checkbox"/>	ふりかえりシート		
<input type="checkbox"/>	付属資料 2 (必要に応じて) パワーポイント		
<input type="checkbox"/>	講師の用意する資料		


■児童・生徒

持物	
<input type="checkbox"/>	筆記用具

【運営のコツ】 ～講師の選定～

- このプログラムでの講師は、防災有識者や防災技術者にお願いすることを想定していますが、より身近な方で講師をお願いすることも有効です。地域とのつながりを再確認することにもつながります。
- 例えば、おじいさんやおばあさんで災害体験を持つ方、近所で災害体験を持つ方などが考えられます。

■プログラムの流れ

活動内容		ポイント
事前	講師の依頼	<ul style="list-style-type: none"> 講師（防災有識者や当該市町村以外の地域に在住の防災技術者）の依頼については、国土交通省天竜川上流河川事務所砂防調査課に問い合わせます。 ※詳細については17ページ参照
導入	災害の概要説明	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが、三六災害について知っていることを発表し合います。
内容	<p><u>三六災害を知る</u></p> <p>◆出前講座 ※場合により副教材（付属資料2）を用います。→パワーポイントの上映</p>  <p>◆意見交換</p>	<ul style="list-style-type: none"> 講師から三六災害がなぜ起こったか、どのような災害であったかを聞きます。 場合により付属資料2のパワーポイントを使いながら、説明をしてもらいます。 講座を聴いた感想、初めて知ったことなどを発表しあいます。 友達の意見を聞いて考えたことを発表しあいます。 もっと詳しく知りたいことなどを講師に質問します。
まとめ	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ふりかえりシートを記入 ふりかえりシートに書いたことを発表 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が防災について、これからできそうなことを考えます。

学校向け活動プログラム

活動プログラム3 伊那谷の災害を訪ねて（室内）

プログラムの概要

災害説明資料（付属資料2：パワーポイント）を用い、伊那谷の災害の特徴を学びます。

【ねらい】

- ・土砂災害の種類や伊那谷の災害の特徴、度重なる災害から復旧してきた伊那谷の姿を知ることにより、日頃からの災害への意識を高めます。

【所要時間】 1 時限

【実施場所】 小中学校、図書館、公民館



パワーポイントで災害の特徴を学ぶ

■準備物（先生方）

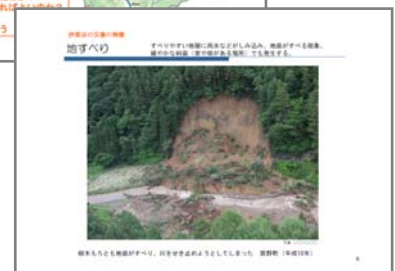
準備物		準備物	
<input type="checkbox"/>	付属資料2 パワーポイント		
<input type="checkbox"/>	ノート PC		
<input type="checkbox"/>	スクリーン		
<input type="checkbox"/>	液晶プロジェクター		
<input type="checkbox"/>	ふりかえりシート		

■児童・生徒


持物	
<input type="checkbox"/>	筆記用具

＝パワーポイント資料の内容＝

- ・伊那谷に多い、川のはらんと土砂災害
- ・災害にあった場所を訪ねてみましょう
- ・三六災害は、どうして起ったのでしょうか？
- ・三六災害でどんな被害があったのでしょうか？
- ・私たちは何をすればよいのでしょうか？
- ・災害体験談付属（映像）



■プログラムの流れ

	活動内容	ポイント
導入	伊那谷で発生してきた災害の概要説明	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが、三六災害について知っていることを発表し合います。
内容	<p>三六災害を知る …付属資料 2</p> <p>◆付属資料 2 (パワーポイント資料) による学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 伊那谷で発生する災害の特徴や、これまでに発生した災害について説明します。 災害体験談 (パワーポイント内に映像として付属) をみんなで聞きます。  <p>◆意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住む地域で発生してきた災害と、復興をしてきた地域に対し思うことを発表し合います。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな画面 (スクリーン) で災害の様子を見ることにより、災害を緊迫した事として感じることができます。 災害体験談 (パワーポイントに映像・音声が付属しています) を聞くことにより、災害をもたらす悲惨な状況、復興を遂げる人の強さを感じることができます。 パワーポイント資料から感じたことを素直に自分の言葉で伝えあえるような雰囲気づくりをします。 おうちの人や近所の人から、災害についての話を聞いたことがある場合は、聞いた話と自分がそのときに考えたことについて発表します。 友達の意見を聞いて考えたことを発表し合います。
まとめ	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ふりかえりシートを記入 ふりかえりシートに書いたことを発表 	<ul style="list-style-type: none"> 災害が発生した時に、自分がどんな行動をとるべきか考えます。 災害に備えて、自分がこれからできそうなことを考えます。

発展的取り組み：地域の災害について、「調べ学習」をすることも有効です

【例】 家族や近所の人から身近な場所で起きた災害について聞き、まとめる。

【例】 調べたことをみんなで発表し合う。

学校向け活動プログラム

活動プログラム 4 伊那谷の災害見学

プログラム概要

三六災害の時に被災した現地を訪問し、災害の爪跡、復興した姿、慰霊碑などを見学します。さらに、被災者や技術者、有識者から被災当時の話を聞きます。



被災当時の話を聞く

[ねらい]

- ・子どもたちが現地に立ち、実際に起こった災害の様子を聞くことで、災害が身近なものであること実感できます。

【所要時間】 1～2時限（被災地が学校に近い場合は1時限も可能）

【実施場所】 被災地

■準備物（先生方）

準備物		準備物	
<input type="checkbox"/>	拡声器	<input type="checkbox"/>	三六災害 DVD(必要に応じて)
<input type="checkbox"/>	記録用デジカメ		「三六災害から50年 よみがえった伊那谷～そして今」
<input type="checkbox"/>	小型バス		
<input type="checkbox"/>	ヘルメット(場所による)		
<input type="checkbox"/>	クリップボード	配布資料など	
<input type="checkbox"/>	ボールペン	<input type="checkbox"/>	現地行程表
<input type="checkbox"/>	ふりかえりシート	<input type="checkbox"/>	付属資料1
<input type="checkbox"/>	救急用具		「伊那谷の災害を訪ねて」
<input type="checkbox"/>			

■児童・生徒持物



持物	
<input type="checkbox"/>	筆記用具
<input type="checkbox"/>	雨具
<input type="checkbox"/>	運動靴か長靴
<input type="checkbox"/>	帽子

【運営のコツ】 ～移動手段について～

- 参加者数が十数人と少なければ、小型乗用車での乗り合いでも運営できます。一方、乗用車が3台以上になるようであれば、移動をスムーズに運営することができるため、小型バスがよいでしょう。
- バスの場合は、車内でも意見交換ができ、児童・生徒間での交流のキッカケができます。
- また、現地は狭い路地になっている場合もあるため、小型バスの方が移動はスムーズです。



■プログラムの流れ

活動内容		ポイント
事前	視察場所の選定 講師の依頼	<ul style="list-style-type: none"> コース選定のための情報提供や講師の依頼は、国土交通省天竜川上流河川事務所砂防調査課に問い合わせます。 ※詳細については17ページ参照 確保できる時限数により、視察箇所数は増減します。(2時限では1～2箇所程度)
導入	<p>伊那谷と自分たちの住む地域で発生してきた災害の概要説明</p> <p><u>概要説明(室内)</u> …付属資料1</p> <p>◆災害一般知識の共有 三六災害をはじめ、天竜川上流域でこれまで発生した災害の概要(被災歴、被災地、被害状況など)について説明します。</p> <p>※時間により、説明はバス内で行うこととし移動します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 開催の目的、講師・語り部の方の紹介をします。 室内説明は、見学会に設定できる時間の有無によって適宜実施します。 移動中のバスの中でもその内容を補うことができます。 災害一般知識の説明は、防災技術者、防災有識者に「講師」として話題提供いただくことで、深い理解を得ることが期待できます。
内容	<p><u>現地見学(屋外)</u></p> <p>◆被災地見学 被災地を訪問し、その当時の様子をみんなで聞きます。</p>  <p>◆慰霊碑見学 被災地にある慰霊碑も、その慰霊碑がどのような意味を持つものか、説明します。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> バスの移動時間が長い場合、必要に応じて災害当時の様子の語りや三六災害DVD「三六災害から50年 よみがえった伊那谷～そして今」を視聴します。 防災技術者または有識者に出席いただいている場合、被災者の話の一部を科学的に深い理解を得ていただくことができます。 <p>◆話を聞くことだけに留めず、講師の方に質問を投げかけることで、より深く、災害の深刻さを共有できます。</p> <p>※地元でどのような慰霊碑があるか、また、どのようないきさつがあるのか、予め調べておくと効果的です。</p>
まとめ	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ふりかえりシートを記入 ふりかえりシートに書いたことを発表 	<ul style="list-style-type: none"> 同じような災害が発生した時に、自分はどうな行動をとったらよいのか考えてみます。 災害に備えて、自分がこれからできそうなことを考えます。

視察場所例（1） 飯田市内の天竜川沿い

天竜川の氾濫により、あたり一帯が水に浸かった川路や松尾・下久堅、山麓部で大規模な土石流が発生した野底川周辺の災害発生箇所です。

※時間によってはいくつかを組み合わせ、複数箇所を訪れるのも効果的です。

松尾・下久堅

川の幅が狭い弁天と鷲流峽に挟まれ、川の水があふれやすい場所です。三六災害時、下流の鷲流峽で天竜川がせき上げられた。天竜川は水かさ増し、弁天神社南側の堤防が決壊した。濁流は主に松尾方面へ流れ込み、広い範囲で家屋や田畑が流失した。

野底川・飯田松川

野底川では、市街地を大量の土砂が流れ下り、2階のひさしまで土砂に埋まった家もあった。上流では川沿いの製綿工場が流され、7名が亡くなった。一方、飯田松川では、大雨が降ったにもかかわらず、野底川と比較して被害は少なかった。

川路

土砂を含んだ洪水が、下流の天竜峽でせき上げられて氾らんし、広い範囲が水に浸かった。川路駅前では、地上から3~4mの高さまで水位が上昇し、以前からたびたび浸水していた旧川路小学校も、2階まで水に浸かった。

視察場所例（2） 小渋川沿い

大型崩壊の起こった大西山、土石流の発生が多かった鹿塩川、集落全体が被害を受けた四徳の災害発生箇所です。

四徳

各所で土砂崩れが発生し、土石流が繰り返し集落を襲った。その結果、7名が死亡、61戸が被災した。災害前は84戸434名が生活していたが、集団移住をよぎなくされた。

鹿塩川

豪雨による土石流で、鹿塩川近くにあった北川分校はいち早く破壊された。また、西山の地すべり崩壊や大花沢からの土石流で鹿塩川の河床が上がり、川沿いの家屋39戸が土砂の下に埋まった。

大西山

壁が割れ目が発達しやすい岩石からなり、雨水の浸透によって不安定になった斜面は、幅500m、高さ450m、厚さ15mにわたって大きく崩れた。風圧と押し寄せる土砂によって、39戸が全壊し、42名の命が奪われた。

視察場所例（3） 上伊那地域

上流の至る所でがけ崩れが発生した新宮川、森林鉄道や集落が流失した三峰川上流、堤防が決壊した松島北島を含む地域です。なお、新宮川と三峰川上流は三六災害の被災地、松島北島は平成 18 年災害の被災地です。

松島北島

各地の水位観測所で警戒水位を超え、伊那市、箕輪町、南箕輪村では約3,160世帯に避難勧告が発令された。箕輪町松島北島地区では、堤防が100m以上にわたって決壊した。

新宮川

上流でがけ崩れが約390か所で発生し、土砂が新宮川に一気に流れ込んだ。そのため、死者5名、被災人員558名に及ぶ人的被害となり、家屋や発電所の倒壊、橋の流出など建物にも被害が生じた。

三峰川上流

孤立沢や熊堂沢で土石流が発生し、戸草や市野瀬の集落に大きな被害がもたらされた。市野瀬では、県道を濁流が流れ、家屋半壊1戸、床下浸水5戸などの被害が生じたほか、伊那里小学校の校庭には、1m余りの土砂が堆積した。戸草では、河川の氾濫で家屋全4戸や森林鉄道が流失した。

学校向け活動プログラム

活動プログラム 5 工事現場見学会

プログラム概要

砂防や治水事業の工事現場を訪問し、実際に起こった災害の爪跡、復興や防災のための対策工事の様子を見学します。工事現場では、技術者、有識者から工事の話を聞きます。



工事現場を見学する

[ねらい]

- ・子どもたちが実際の工事現場に立ち、災害の様子や復興や防災に向けての取組について、理解を深めます。

【所要時間】 1～2時限 (工事現場が学校に近い場合は1時限も可能)

【実施場所】 工事現場

※学校近くの場所を設定する

(天竜川上流河川事務所もしくは長野県の各建設事務所に問い合わせる)

■準備物 (先生方)

準備物		準備物	
<input type="checkbox"/>	講師の用意する資料 ※工事図面・現場の状況など	<input type="checkbox"/>	救急用具
<input type="checkbox"/>	拡声器	<input type="checkbox"/>	三六災害 DVD (必要に応じて) 「三六災害から50年 よみがえった伊那谷～そして今」
<input type="checkbox"/>	記録用デジカメ	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	小型バス	配布資料など	
<input type="checkbox"/>	ヘルメット (場所による)	<input type="checkbox"/>	現地行程表
<input type="checkbox"/>	クリップボード	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	ボールペン	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	ふりかえりシート	<input type="checkbox"/>	


■児童・生徒持物

持物	
<input type="checkbox"/>	筆記用具
<input type="checkbox"/>	雨具
<input type="checkbox"/>	運動靴か長靴
<input type="checkbox"/>	帽子

【運営のコツ】 ～工事の背景を知る～

- 工事により完成した構造物や建設機械だけを見学するのでは、子どもたちの理解が偏ったものとなります。
- 実際に災害が発生して下流の住居を防ぐ必要がでてきた、上流からの土砂を止めたなど、工事をするようになった背景や効果をあわせて説明いただく (あるいは質問する) と理解がより深まります。

■プログラムの流れ

活動内容		ポイント
事前	見学工事箇所を選定 講師の依頼	<ul style="list-style-type: none"> 見学工事箇所選定のための情報提供や講師の依頼は、国土交通省天竜川上流河川事務所砂防調査課もしくは長野県の各建設事務所に問い合わせます。 ※詳細については17ページ参照 確保できる時限数により、視察箇所数は増減します。(2時限では1～2箇所程度)
導入	見学する現場についての概要説明 <u>概要説明(バス内)</u> ◆工事現場の概要説明 本日見学する工事現場について、なぜ工事をするようになったのかなどについて説明します。	<ul style="list-style-type: none"> 開催の目的、講師の方の紹介をします。 移動中のバスの中の時間を活用し、見学する現場の簡単な説明を受けます。 バスの移動時間が長い場合、必要に応じて災害当時の様子の語りや三六災害DVD(三六災害から50年よみがえった伊那谷へそして今)を視聴します。
内容	<u>現地見学(屋外)</u> …講師の用意する資料 ◆工事現場見学 工事現場を訪問し、災害の様子や工事の様子をみんなで聞きます。  ◆見学してみたの感想 帰りのバスの中で感想を述べあいます。	<ul style="list-style-type: none"> 災害を復旧することや災害を未然に防ぐことなど、工事の目的を現場で説明いただくことで、より理解が深まります。 講師は、土木技術者をお願いすることから、現場の構造物の特徴やどのような災害を防ぐのか、などより具体的な話をお聞きすることができます。 工事現場を見学してみたの感想を帰りのバスの中で述べ合います。
まとめ	ふりかえり ・ふりかえりシートを記入 ・ふりかえりシートに書いたことを発表	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生後、まず何を復興していけばよいのか考えてみます。 災害に備えて、事前にどのようなことをしておくといのか考えてみます。

学校向け活動プログラム

活動プログラム 6 自分のまちの防災マップをつくろう！

プログラム概要

自分たちの住む地区オリジナルの防災マップをつくれます。

[ねらい]

- ・防災マップづくりを通し、自分の命は自分で守り、日々の生活の中で防災を意識することへのきっかけをつくれます。
- ・友達と一緒に防災マップをつくることにより、子どもたち共通の“地域への思い”を育みます。



オリジナルの防災マップをつくる

- 【実施人数】 5～7人/班程度
- 【所要時間】 およそ4時限 ※2回に分けて実施することも可能
- 【実施場所】 学校や公民館（その校区（地域）内でのフィールドワーク）

■準備物（先生方）

準備物		準備物	
<input type="checkbox"/>	クリップボード	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	校区（地区）の地図 まちなか探検用（A3）	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	マジック	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	テープ	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	模造紙	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	デジタルカメラ	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	救急用具	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	ふりかえりシート	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	

■児童・生徒

持物	
<input type="checkbox"/>	筆記用具
<input type="checkbox"/>	活動しやすい服装
<input type="checkbox"/>	帽子
<input type="checkbox"/>	雨具

室内活動(20分)

① マップづくり作戦会議

災害発生を想定し、防災マップにもりこむ内容（野外活動でのチェックポイント）を考えます。

野外活動(60分)

② 防災探検隊出動！

グループごとに担当エリアを歩きながら、防災ポイントをチェックします。

室内活動(90分)

③ 防災マップづくり


チェックした防災ポイントを地図にまとめ防災マップを作成し、発表しあいます。

室内活動(30分)

④ 今後の作戦会議

防災マップの活用方法や、今後、自分たちにできることについて話しあいます。

■プログラムの流れ

	活動内容	ポイント
導入	<p>マップづくりの作戦会議（室内） 自分たちの地域で災害が発生したことを想定し、災害の際に必要な情報、防災マップにもりこむ内容について考えてみます。</p> 	<p>[抽出ポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険な場所：細い道、行き止まりの道、水路、用水路、排水路（詰まっているところ、溢れそうなところ）、崖 など ・安全な場所：広場、公園、オープンスペース、高いところ など ・避難経路 ・避難所など災害時に役に立つ施設、消火栓、公衆トイレ、公衆電話、掲示板、薬局、コンビニ、スーパー など ・官公署・医療機関など、災害救援にかかわる機関・施設 ・災害時要援護者のいる世帯、独居老人宅
ワーク	<p>防災探検隊出動！（野外） ◆グループ分けと役割分担 地域の中を探検するためのグループ分けをし、グループの中での役割分担をします。探検エリアが広い場合は、エリア分けをします。</p> <p>◆まちなか探検 みんなで歩きながら、自分たちの暮らす地域の防災チェックをします。</p> <p>気づいたことをどンドン地図に記入します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1グループの人数は、安全に野外活動のできる人数（5～7人程度）にします。 ・グループ内役割分担例 リーダー（安全係）、地図係、写真係など ・デジタルカメラがあれば、チェックしたポイントを撮影し、マップづくりの資料とします。 <p>[野外活動時の注意事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでまとまって行動する。 ・交通安全に十分注意する。
	<p>防災マップづくり（室内） ◆マップ作成 まちなか探検でチェックした情報を整理し、防災マップを作成します。</p> <p>◆発表 できあがった防災マップの発表会をします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなか探検でチェックしたこと、発見したこと、感じたことを一枚の模造紙（A1～A2サイズ）にまとめていきます。 ・班ごとに防災マップを発表します。 ・まちを探検してみて分かったこと、感じたこと、疑問に思ったことなど発表します。
まとめ	<p>今後の作戦会議（室内） ◆意見交換</p> <p>◆まとめ 今後、自分がどのように行動するか発表ふりかえりシートを記入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの発表を聞き、考えたことを発表しあいます。 ・作成した防災マップの活用方法をみんなで考えます。 ・今後、自分がどのように行動するか考え、発表しあいます。

(4) 活動を円滑に進めるための情報・資料

1) 講師・視察先などの問合せ先

プログラムを実施する際、特に、災害や防災に関する専門的な内容について学習したい場合、専門分野の研究者や技術者の支援を受けることで、スムーズに運営できることが期待できます。また、災害体験者の話を聴きたい場合には、災害についての語りをしてくださる講師の調整を要します。

また災害箇所の視察や工事現場見学の際には、視察コースや工事現場の情報を事前に得ておくことが必要です。

講師などを希望する際、下の連絡先に問合せることで、講師などの紹介を受けることが可能です。

【講師・視察先など】

- 国土交通省天竜川上流河川事務所砂防調査課 駒ヶ根市上穂南7番10号
連絡先 (TEL) : 0265-81-6417

【視察先（工事現場）など】

■ 長野県 各建設事務所

事務所名	担当課	TEL	FAX
伊那建設事務所	整備課	0265-76-6848	0265-76-6850
飯田建設事務所	整備課	0265-53-0451	0265-24-5412

※ 講師問合せ時の留意点

講師について問い合わせる際は、次の事項に留意を要します。講師は、あくまでも情報伝達者であり、当日の運営は主催者にあることを認識し、講師にまかせきりにしないよう留意が必要です。講師は他の地域でも講師として活動しているケースが多いことから、講師への事務負担や日程の負担を減らすことも検討を要します。

[講師への出講依頼時の留意点]

- プログラムのねらい、実施内容を固めておくこと。
- 日程に余裕をもち、講師との日程調整は可能にしておくこと。実施主体者の都合で日程を決めず、講師の都合を優先すること。

※ 災害体験者への講師依頼時留意点

災害体験者の精神的な苦痛は、現在でも癒えているわけではありません。座談会での登壇を依頼する際には、次の点に十分留意し、直接訪問するなど丁寧に依頼対応することが重要です。

[災害体験者登壇依頼時の留意点]

- 開催趣旨、開催内容を正確に、丁寧にご案内する。
- 実施日の1か月前、1週間前、前日…など、時折準備状況などをお伝えする。
- マスコミなどが入る際には、事前に、その旨を伝え、了解を得る（顔写真、氏名の露出の可否を聞いておく）。さらに、ビデオ撮影をし、他に転用する際にはそのこともご了解いただいております。

その他、専門の講師、災害体験者に出講・登壇いただいた後は、お礼の連絡（電話、電子メール、手紙など）をすることも心がけたいです。その際、子どもたちからの声（アンケートの結果概要など）もお伝えすると、お話いただいた講師・体験者とも安心していただけることと、次回の依頼もしやすくなります。

2) 防災学習ができる施設

天竜川上流域には、防災に関する学習ができる施設があります。施設によっては、現地での説明を依頼できるところもあり、地域の防災学習に活用できます。

■ 駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム

<http://field-museum.kankou-komagane.com/>

中央アルプスの豊かな自然に育まれた駒ヶ根高原一帯の自然、人々が築きあげた文化、郷土を守る砂防設備により整備が進んだ土地利用、景観ビューポイントなどの地域資源全体を野外展示物と見立てた青空博物館。地域活性化と、地域の安全・安心のための防災力を向上させることを目的に運営されている。

[利用]

ガイド料金 : 無料
 開催期間 : 予約があれば随時開催
 時 間 : 約 2～3 時間程度
 受入可能人数 : ガイド 1 名につき 1 名～15 名程度
 連絡先 (TEL) : 0265-81-7700 (駒ヶ根観光協会)

■ 大鹿村中央構造線博物館

下伊那郡大鹿村大河原 988

<http://www.osk.janis.or.jp/~mtl-muse/index.htm>

長野県と静岡県の間境、南アルプスの主峰赤石岳の山麓にある。中央構造線のほぼ真上にあり、中央構造線と大鹿村の岩石標本が中心に展示されている。天竜川上流域の災害のメカニズムについて、標本やジオラマを見ながら学習できる。

[利用]

開館時間 : 9 : 30～16 : 30
 休館日 : 月曜・火曜
 入館料 : 大人 500 円、中高校生 200 円、小学生無料 (大鹿村民、団体は特別料金)
 連絡先 (TEL) : 0265-39-2205

■ 天竜川総合学習館 かわらんべ

飯田市川路 7674

<http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/kawaranbe/>

「天竜川の学習」「地域コミュニティ」「防災の拠点」という 3 本の柱をもとに、講座や体験学習が開講され、地域の防災の拠点の役割を担っている。館内には様々な展示物や図書室、貸室可能な「総合学習室」があり、無料で閲覧・利用できる。

[利用]

開館時間 : 9 : 00～17 : 00 (貸室は 21:00 まで可能)
 休館日 : 月曜・祝日の翌日
 入館料 : 無料
 連絡先 (TEL) : 0265-27-6115

3) インターネット情報

天竜川上流域における防災関連の情報は、インターネットからも豊富に得ることができます。その中でも、天竜川上流域を始めとする長野県内での防災に関する資料が充実しているホームページを下にまとめました。

■ 天竜川上流河川事務所

<http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/index.htm>

天竜川上流域のこれまでの災害やその後の取組みなどに関する情報を提供している。ダウンロードして印刷できる資料も豊富にそろっており、災害のメカニズムや被害状況、災害後の取組みなどの情報を包括的に得ることができる。

■ 駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム

<http://field-museum.kankou-komagane.com/>

「駒ヶ根市・宮田村に伝わる 災害おはなしマップ」をはじめ、防災学習に役立つ資料が閲覧・ダウンロードできる。ミュージアムでのガイドツアーの募集もしていることがある。

■ 天竜川総合学習館 かわらんべ

<http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/kawaranbe/>

天竜川の防災拠点・かわらんべが備えている主な設備や、かわらんべが実施している防災講座などを紹介している。

■ 長野県建設部砂防課

<http://www.pref.nagano.lg.jp/doboku/sabo/kashokai.htm>

長野県下の土砂災害に関する情報を提供している。県内各地での土砂災害の様子や取組みなどが俯瞰できる。地域防災に関するソフトな取組みの先進的な取組みの紹介もある。

4) 伊那谷の災害や防災に関する図書などの資料

伊那谷には、災害や防災に関する資料が多数あります。その中で、一般に入手しやすいもの、また、閲覧しやすいものなどをリストアップしました。

■伊那谷の災害や防災に関する図書・文献一覧

No.	図書・文献のタイトル	発行年	編集者・著者・発行元
1	復興の記録(36.6 梅雨前線豪雨災害)	昭和 39 年	[編集・発行]伊那谷 36 災害復興感謝祭事務局
2	災害復旧の記録 (昭和 36 年 6 月梅雨前線豪雨)	昭和 40 年	[編集・発行] 長野県土木部
3	四徳誌	昭和 55 年	[著者]小松谷雄 [発行元] 四徳人会
4	三十年のあゆみ	昭和 55 年	[編集]天竜川上流工事事務所、社 団法人中部建設協会 [発行元]社団法人中部建設協会
5	36 災害 20 周年記念 災害の記録	昭和 56 年	[編集・発行元] 高森町
6	語り継ぐ災害の記録 伊那谷災害記念特集号	昭和 56 年	[編者]昭和 36 年災害 20 周年記念 行事実行委員会出版部会
7	続・濁流の子 伊那谷昭和 36 年災害をのりこえて	平成 5 年	[編集]砂防広報センター、株式会 社インタレスト [発行元]天竜川上流工事事務所
8	天竜川の災害伝説	平成 5 年	[著者]笹本正治 [発行元]天竜川上流工事事務所
9	三六災害 40 周年 伊那谷の土石流と満水	平成 13 年	[編集]松島信幸、亀田武巳、村松武 [発行元]伊那谷自然友の会・飯田 市美術博物館
10	天竜川サイエンス -天竜川上流域の変化は、何を語る-	平成 18 年	[企画・編集]天竜川サイエンス編 集委員会 [発行元]信濃毎日新聞社
11	「語りつぐ36災害」 体験者インタビュー集 大西山崩壊と大鹿村の復興	平成 18 年	[編集]特定非営利活動法人 砂防 センター [発行元]天竜川上流河川事務所
12	天竜川上流域 災害教訓伝承手法 実践の手引きと実例(案) http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/flood/densho/tebiki.html	平成 21 年	[発行元]天竜川上流域災害教訓 伝承手法検討会
13	わたしたちの暮らしと伊那谷 郷土を守る砂防事業	不明	[製作](社)中部建設協会 [発行元]天竜川上流工事事務所
14	明日に伝える三六災害 川路・龍江の水害体験談と子供達の取り組み (語りつぐ天竜川シリーズ第 60 巻)	平成 18 年	[編集]ユニプリント(株) [発行・企画]天竜川上流河川事務 所

5) 関係機関連絡先

天竜川上流域の防災の取り組みに関する問合せ一覧を下表にまとめました。

表 防災の取り組みに関する関係機関

関係機関		担当部署	電話番号	FAX	
国土交通省 天竜川上流河川事務所		砂防調査課	0265-81-6417	0265-81-6420	
長野県	建設部（県庁）	砂防課	026-235-7316	026-233-4029	
	伊那建設事務所	整備課	0265-76-6848	0265-76-6850	
	上伊那地方事務所	地域政策課	0265-76-6803	0265-76-6804	
	飯田建設事務所	整備課	0265-53-0451	0265-24-5412	
	下伊那地方事務所	地域政策課	0265-53-0402	0265-53-0475	
市町村	上伊那	伊那市	危機管理課	0265-78-4111	0265-78-8100
		駒ヶ根市	庶務課	0265-83-2111	0265-83-4348
		辰野町	総務課	0266-41-1111	0266-41-3976
		箕輪町	総務課	0265-79-3111	0265-79-0230
		南箕輪村	総務課	0265-72-2104	0265-73-9799
		宮田村	総務課	0265-85-3181	0265-85-4725
		飯島町	総務課	0265-86-3111	0265-86-4395
		中川村	総務課	0265-88-3001	0265-88-3890
	下伊那	飯田市	危機管理交通安全対策室	0265-22-4511	0265-24-9316
		松川町	総務課	0265-36-3111	0265-36-5091
		高森町	総務課	0265-35-9402	0265-35-8294
		阿南町	総務課	0260-22-2141	0260-22-2576
		阿智村	総務課	0265-43-2220	0265-43-3940
		平谷村	総務課	0265-48-2211	0265-48-2212
		根羽村	振興課	0265-49-2111	0265-49-2277
		下條村	総務課	0260-27-2311	0260-27-3536
		売木村	産業課	0260-28-2311	0260-28-2135
		天龍村	総務課	0260-32-2001	0260-32-2525
		泰阜村	総務課	0260-26-2111	0260-26-2553
		喬木村	総務課	0265-33-2001	0265-33-3679
		豊丘村	総務課	0265-35-9050	0265-35-9065
		大鹿村	総務課	0265-39-2001	0265-39-2269